



発行号 第190号
発行日 令和8年1月14日（水）
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司（県商10回卒）

誰ひとり取り残さない地域社会をつくりたい！ 加藤 政実 県商 17 回卒(昭和 43 年3月)



WACNET. インフォメーション

特定非営利活動法人福祉住環境地域センター 理事長

特定非営利活動法人たすけあい三河 理事長

道 標

昭和 40 年豊橋商業高校貿易科へ入学する。最後の貿易科一クラスのこの特殊学級、その中で限りのない試練に耐え、部活に生きがいを見つけていった。新しく創部された豊商インターアクトクラブに参加し、燃焼したクラブ活動。海外ハイスクールとの交流、出会い、全国大会、ブルーバード賞受賞、乳児院、児童施設ボランティア、高齢者施設慰問(演劇＆音楽)などリーダーとして創設期の部員を引っ張る活動に生きがいを見つける。

今に思えば、この時の体験が、47才の挫折からの再生につながっていく。再度世のため人のために仕事がしたい。長寿社会文化協会の地元豊橋でのランチとなり、東京商工会議所の福祉住環境コーディネーターの資格養成講師を契機として、NPO活動へ、たすけあい三河では有償ボランティアの仕組みをつくり、市民後見、身元保証、居住支援、生活困窮者支援を行い、福祉住環境地域センターでは障害者福祉事業所を立ち上げ、就労の機会として、自然栽培農業を実践し、芸術活動(アート、音楽)を始め、統合する形で、地域コミュニティづくり、まちづくりへと展開させてきた。

今回、新たに情報化社会の次々にくる未来社会をめざし、WACNET.Society5.0&Community(通称 WACNET.5. 0)を創設する。この地域に生きる人と人、人と法人に向けて、WACNET が 25 年かけて積み上げてきた医療福祉・農業・芸術のノウハウと知識すべてを、この地域の未来のために提供していくつもりである。

私たちの豊橋・東三河は、医療福祉・農業・芸術と地域社会と地域経済がまずは地域でフュージョンされる必要がある。グローバル経済は、日本では東京に一極集中し、その先の海外にマネーは流れていく。私たちが暮らす地域にはローカル経済が機能しない限り、人の流れが地域から出ていってしまう。人口減は避けられない。医療福祉がまわらない。経済がまわらない。雇用もできない。結果悪いスパイラルに巻き込まれることになる。現在まさにその状況にむかいつつある。

豊橋・東三河のローカル経済を再構築する。それには、各分野のリーダー輩出が欠かせない。そのための拠点として、WACNET.5.0は機能していきたい。つながりと出会い、起業家育成、しくみづくりに専念してみたい。

今の仕事を天職と考え、これからも生涯現役でこの地域のため、日本のため、尽力していきたい

[illegible]